

浙江省 2018 年 4 月高等教育自学考试

日本文学选读试题

课程代码:00612

请考生按规定用笔将所有试题的答案写在答题纸上。

注意事项:

1. 答题前,考生务必将自己的考试课程名称、姓名、准考证号用黑色字迹的签字笔或钢笔填写在答题纸规定的位置上。
2. 用黑色字迹的签字笔或钢笔将答案写在答题纸上,不能答在试题卷上。

一、次の傍線部の漢字をひらがなで書きなさい。(10% 1×10)

1. 文学者はもともと精神の束縛を持たぬ自由人でなければならない。 ()
2. 人生を道にたとえるのは平凡である。 ()
3. それなら、未練なく、ドライに別れることができるのではないか。 ()
4. 画家が花を見るのは好奇心からではない。 ()
5. いつかは素粒子の心を知ったと言える日がくるだろうと思っている。 ()
6. ぼくはここで逆説を弄しようとしているのではない。 ()
7. もう少し辛抱よ、我慢するんですよ。 ()
8. ひどく愛想のいい女の声が届かぬのを待って彼女はそっとドアを開けた。 ()
9. 不器用に体を振りながら歩く形が思われた。 ()
10. しかし、その微笑みはどこかまだ不安そうであった。 ()

二、次の傍線部の仮名を漢字で書きなさい。(10% 1×10)

11. その人の美しい心や、人柄も含めて、すがたがいいと言うのでしょうか。 ()
12. 俳句は直感のげいじゅつである。 ()
13. 男らしくない、女々しいといわれたら、べんかいの余地はない。 ()
14. しかし尺八のそうしゃはまさに無念無想の構えである。 ()
15. 自分のしんけいそのものが流れ出しているかのようだ。 ()
16. 真っ暗ななかで少年のたいおんに温かまりながら、私は涙を出まかせにしていた。
()
17. そうしてむごんのまま窓を離れて、自分の部屋に戻って行った。 ()
18. もっとも今日は、こくげんが遅いせいか、一羽も見えない。 ()
19. 彼の自白は最初から最後まで同じちようしで貫いていました。 ()
20. そこであってここにおんあいの契りもなければ義理もない。 ()

三、穴埋め (10% 1×10)

21. 「今年の中秋の名月は、嵯峨では雲一つなく、まばゆく輝き、済みきっていた」という文で始まる文章は『()』である。その作者は()である。女流小説

家で、昭和 38 年、『()』で第 2 回女流文学賞を受賞し、作家としての地位を築く。

22. 『ひとすじの道』の作者は()であり、日本()でもあり、随筆家でもある。1969 年()受賞。

23. 『忘れえぬ人々』の作者は()である。天性の短篇作家で、多彩な形式を書き分けたが、文壇的には不遇で、晩年に至って()の先駆として一躍脚光を浴びた。

24. 『徒然草』の作家は()であり、鎌倉時代後期にできた()である。

四、次の文章を読んで、次の間に答えなさい。(24% 2×12)

文章 I

私は①何度か砂漠へ出かけた。旅ということばをきくと、どういうわけか私の胸中には空と砂とがひとつに溶け合った果てしない砂漠の光景が浮かぶのである。②そのような光景が浮かぶと、次の瞬間、私はどうしてもそこへ我が身を置いてみたくなる。こうして私はまるで砂にたぐり寄せられるように砂漠へ旅立った。

なぜ砂漠にそんなに惹かれるのか。自分にもよくわからない。(③)、おそらく、砂漠というものが、私にとってはまったくの反世界だからだろうと思う。

25. これは『砂漠への旅』の一段落である。この作品の作家はだれか。(2 点)

A 夏目漱石 B 森本哲郎 C 渡辺淳一 D 小林秀雄

26. ①「何度か」の「か」はどんな意を表すか。(2 点)

A 疑問 B 反語 C 詠嘆 D 不確実

27. ②「そのような光景」とはどのような光景か。文中から抜き出して、書きなさい。(2 点)

28. 文中(③)に入れるのに最も適当なものを選びなさい。(2 点)

A そして B それから C しかし D しかも

文章 II

そんなことがあって、またしばらくして、ある夕方、町から小川に沿うて一人だんだん上へ歩いて行った。山陰線のトンネルの前で線路を越すと道幅が狭くなって道も急になる、流れも同様に急になって、人家も全く見えなくなった。もう帰ろうと思いつつ、あの見える所までというふうに角を一つ一つ先へ先へと歩いて行った。物がすべて青白く、空気の肌触りも冷え冷えとして、物静かさがかえってなんとなく自分を①そわそわとさせた。大きな桑の木が道端にある。向こうの、道へ差し出した桑の枝で、ある一つの葉だけがヒラヒラヒラヒラ、同じリズムで動いている。風もなく流れのほかはすべて静寂の中にその葉だけがいつまでもヒラヒラヒラヒラヒラとせわしく動くのが見えた。自分は不思議に思った。多少怖い気もした。しかし好奇心もあった。自分は下へ行ってそれをしばらく見上げていた。(②) 風が吹いてきた。そうしたらその動く葉は動かなくなった。原因は知れた。何かでこういう場合を自分はもっと知っていたと思った。

29、①「そわそわ」という言葉と最も意味が近いのはどれか。(2点)

- A 怖がる B 落ち着かない C 心配する D いらつく

30、(②)に入る最も適当な言葉はどれか。(2点)

- A ところが B けれど C だから D すると

31、この作品のテーマはどれか。(2点)

- A 城の崎にて B 富嶽百景 C 月夜 D ひとすじの道

32、この作品は次の文学ジャンルのどれに属するか。(2点)

- A 自伝 B 心境小説 C 随筆 D 評論

文章Ⅲ

月日は百代の過客にして行きかふ年もまた旅人。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口をとらへて老いを迎ふる者は日々旅にして旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。①予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへ、去年の秋、江上の破屋にくもの巢を払ひて、やや年も暮れ、春立てる霞の空に白河の関越えんと、そぞろ神の物につきて心を狂はせ、道祖神の招きにあひて取るもの手につかず、②ももひきの破れをつづり、笠の緒をつけ替へて、三里に灸するより、松島の月先心にかかりて、住る方は人に譲り、杉風が別荘に移るに、

草の戸も住替わる代ぞ③雛の家

面八句を庵の柱に懸置。

33、①「予」の意味を現代語で書きなさい。(2点)

34、②「もも引きの破れをつづり」と対になっている言葉を原文から抜き出して書きなさい。(2点)

35、③「雛の家」とは何を表現していますか。次から選びなさい。(2点)

- A あたかも雛人形が住むようなかわいらしい家
B 飼っていた鳥の産んだ卵が雛にかえた家
C これから雛人形がまつられてにぎやかになる家
D 卵からかえたばかりの雛のように新しい家。

36、この俳句の季語と季節を答えなさい。(2点)

草の戸も住替わる代ぞひなの家

季語 () 季節 ()

五、次の内容を簡単に解釈しなさい。(20% 5×4)

37、竹取物語

38、方丈記

39、井上靖

40、太宰治

六、論述(26% 13×2)

41、松尾芭蕉の俳句の特色について簡単に説明しなさい。そして、「この秋はなんで年よる雲に鳥」の俳句の意味を書いてください。

42、1968年に日本人として最初のノーベル文学賞を受けた川端康成の初期の代表作「伊豆の踊子」のあらすじを書いてください。